



令和7年2月に発生した岩手県大船渡市の林野火災を受けて、総務省消防庁から各自治体に対し、林野火災の防止を目的とした「火災予防条例」の改正を促す通知が出されました。この通知に基づき、上島町においても令和8年1月1日から「林野火災注意報・警報」の運用が始まります。



## 林野火災注意報・警報の運用開始について

### 【林野火災に関する注意報について】

気象の状況が山林、原野等における火災の予防上注意を要すると認めるときは、「林野火災に関する注意報」を発令し、上島町火災予防条例に定める「火の使用の制限」について、**努力義務**を課することとなります。

### 【火災に関する警報について】

林野火災の予防を目的として火災に関する警報を発したときは、上島町火災予防条例に定める「火の使用の制限」について、**義務**を課することとなります。消防法では、火災警報による「火の使用の制限」に違反した者に対して、**30万円以下の罰金または拘留に処する**ことが定められています。

### 【注意報・警報が発令された場合の火の使用制限について】

上島町火災予防条例第29条により、以下の「火の使用の制限」がかかります。

- (1) 山林、原野などにおいて火入れをしないこと。
- (2) 煙火（花火）を消費しないこと。
- (3) 屋外では、火遊びまたは**たき火**をしないこと。
- (4) 屋外では、引火性または爆発性の物品や、可燃物の附近で喫煙をしないこと。
- (5) 山林、原野等で喫煙をしないこと。
- (6) 残火（たばこの吸い殻を含む）、取灰または火粉を始末すること。

### 【林野火災に関する注意報・警報の周知、広報について】

林野火災に関する注意報・警報を発令した場合は、防災アプリによる周知や消防車両の巡回による広報を行います。また、火災とまぎわらしい煙などを発する行為の届出の受付時には、たき火等の中止をお願いしますので、ご協力をお願いします。

※林野火災注意報・警報の発令は、下記の愛媛県林野火災アラートの発表基準に準じて行います。

## 愛媛県林野火災アラートの新設について

### （第1段階：注意レベル） 愛媛県林野火災**警戒**アラート （発表基準）

- ①乾燥注意報が発表されていること
- ②最大風速5メートル以上が見込まれること
- ③前後12日間の平均降水量が3ミリ以下となっていくこと（前10日・当日・後1日）

林野火災を未然に防止するため、注意喚起を促すことを目的に令和7年5月21日から施行されています。

上島町に林野火災アラートが発表された場合は、火災注意報・警報と併せて防災アプリ等でお知らせします。

### （第2段階：警戒レベル） 愛媛県林野火災**特別警戒**アラート （発表基準）

第1段階の状態が4日間連続する場合  
※市町単位で発表します。



愛媛県林野火災アラートQRコード

## 令和7年11月出動件数（令和7年11月30日現在）

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R7累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	15	9	6	0	0	30	366

【上島町消防署】 ☎ 77-4118  
【上島町消防本部消防防災課】 ☎ 77-3166

共に守ろう、大切な人とふるさとを  
消防団員**絶賛**募集中！

## 窒息事故を防ごう

12月から1月は、全国的に餅を喉に詰まらせる事故が多くなります。特に高齢者による窒息事故が多く発生しており注意が必要です。

### 【もし喉に「餅を」を詰ませたら】

（背部叩打法を実施）  
手の平の付け根で、背中の中央部（肩甲骨の中心）を強く叩き、はき出させる方法です。



夏、初秋頃から町内のカンキツ生産者より畑で茶褐色の虫をよく見かける、枝に白いカイガラムシのような物が付いているという相談が複数あり、県内や近県の状況からチュウゴクアミガサハゴロモ（写真1）という中国原産の侵入昆虫と判断しました。

深刻な実害は見られていませんが、多種類の果樹に寄生・産卵するため農業害虫に位置付けられています。

今回はチュウゴクアミガサハゴロモとい昆虫について解説します。



写真1 チュウゴクアミガサハゴロモの成虫

① ハゴロモという昆虫  
成虫は体長1cm前後のカムシ目ハゴロモ科の小さな昆虫で、草木の樹液を吸って暮らしています。

形態はセミのような顔つきで、体に対して翅が大きくガのようにも見えます。驚くとピョンと跳ねるのが特徴で、アオバハゴロモという同種のカンキツ園で見ることがあります（写真2）。しかし、山沿いの雑木林近くのあまり農業を散布しない園地での発生に限られ、今回発生しているチュウゴクアミガサハゴロモは農業散布の影響もほとんどなく広範囲のカンキツ園で発生が見られています。

### ② チュウゴクアミガサハゴロモの生態



写真2 アオバハゴロモ成虫

チュウゴクアミガサハゴロモは2017年（平成29年）に大阪府で国内初確認され、その後西日本で急速に発生分布が拡大しています。

成虫の体長は14mm前後で前翅（まえはね）が茶褐色から鉄さび色、羽の前縁に白斑があるのが特徴です。動きが俊敏で、夏頃から成虫が見られはじめ、緑枝や葉脈にふわふわの白いロウ物質で覆われ産卵痕が見られます。産卵痕は一直線に数センチの長さがあり、一見するとイセリアカイガラムシにも似ています（写真3）。卵からふ化した幼虫も同様に白いロウ物質に覆われています。国内には

### ③ チュウゴクアミガサハゴロモの被害と対策



写真3 チュウゴクアミガサハゴロモの産卵痕

成虫・幼虫ともに枝に寄生して吸汁し、緑枝内に産卵するため枝の衰弱などが心配されます。しかし、すぐに枝枯れが発生しないので被害程度は分かっています。

アミガサハゴロモと命名される近縁種がありますが、カシ類（どんぐりのなる木）にしか生息しません。チュウゴクアミガサハゴロモはいろいろな樹種に生息できる雑食性のため分布の拡大が早い原因と考えられます。生態については不明な点が多く、昨年からの町内の一部の園地で発生が確認されていましたが、今年になり広範囲で見られるようになりしました。カンキツ園で発生が見られています。

せん。また、寄生する密度が多くなると虫の排せつ物にすず病が発生するという報告があり、今後、発生密度が高くなってくると影響が出てくることも考えられます。

防除について愛媛県果樹研究センターによると、ダントツ水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、アークリン水和剤、テルスター水和剤の殺虫効果があるとの見解が示されています。

### ④ やむを得ない

地球上で最も生息の多い生物は昆虫と言われている、物流や人の往来が頻繁であることから容易に海外から未知の昆虫が入ってくる可能性が高くなっています。

セアカカケグモやヒアリなど毒を持つ人体に影響を及ぼすこともあるので見慣れない昆虫を見つけたら、まずは県担当部署や町役場にご相談ください（しまなみ農業指導班岩城駐在 ☎ 7512014）。